

学生会だより

関東学生会の概要と 学生会の活動

関東学生会は東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨の全8ブロックから構成されており、47の会員校が参加している。

学生会では年間を通し、3月に学生員卒業研究発表講演会、5月に第一回会員校会、秋から冬にかけて全体交流会・見学会を開催している。また、年3回、学生から話題提供するニュースレター、「JSME-dia」を発行している。

2011年6月に開催された会員校会では、会員校運営委員47名が集まり、2011年度の役員選出とJSME-dia担当ブロックの選出を行った。今年は委員長校として日本大学が選出され、鈴木崇司さんが委員長に選ばれた。会員校会後は懇親会を開催し、大学間で和気藹々と学生の交流があった。2011年11月には全体交流会・見学会として、東芝青梅事業所での見学会、また、2012年3月には日本大学生産工学部津田沼キャンパスで第51回学生員卒業研究発表講演会を開催する。

また、関東学生会ではブロックごとの活動が活発に行われており、各ブロックでは大学、工業高等専門学校を主体として、工場見学会や企業技術者との交流会、学生コンテストなどさまざまな活動が行われている。

1. 委員長校会議と学生交流会

年次大会期間中の9月13日に、東京工業大学にて全国の各支部（北海道、東北、北陸信越、関東、東海、関

西、中国四国、九州）の学生会の委員長による委員長校会議が開催された。関東学生会委員長の鈴木崇司さん（日本大学）の司会で進行され、自己紹介の後、各学生会での活動の様子を報告し合い、交流を深めた。

次いで、学生交流会が開催された。会員部会学生交流会企画実行委員会による企画であるが、会場準備や司会などは学生会の各委員長によって進められた。第一部では企業若手技術者による自己紹介や体験談が紹介され、第二部では若手技術者を囲んだ立食形式意見交換会が行われた（図1）。総勢157名が参加し、キャリアパスを考えるうえで役立つとともに、学生間の交流にも貢献し大変好評であった。



図1 2011年9月 学生交流会第二部の様子

2. 「メカライフの世界」展

2011年度の「メカライフの世界」展は7校で企画された（表1）。小中学生・高校生の興味を引こうと、各校の担当者はいろいろと工夫を凝らしている。横浜国立大学では、オープンキャンパスの開催に合わせて、機械工学の原点である「ものづくり」の面白さを体験してもらう場を提供する試みを実施した。電気自動車、燃料電池、マイクロマシン、切削加工技術などが展示・紹介された。また、学生フォーミュラや鳥人間コンテストの学生チームが製作した作品が展示・紹介された（図2）。さらに、「アインシュタインから学ぶ『思考実験』」と題して、過去の偉人たちはどのように「思考実験」に



図2 「メカライフの世界」展（横浜国立大学）

表1 関東学生会 2011年度「メカライフの世界」展

学校名	テーマ	開催日
拓殖大学	ミニ電気自動車のすすめ	10月15日、11月12日
横浜国立大学	社会に貢献する機械工学—「ものづくり」への招待—	8月6日・7日
東京工業高等専門学校	作って、飛ばして、手作り飛行物体!	10月29日、30日
群馬大学	「メカライフの世界」展 わくわくどきどき、メカニカル! 2011	10月16日・17日
東京工業大学	メカの世界2011	10月22日・23日
木更津工業高等専門学校	作って楽しもう! メカライフ2011!	11月5日・6日
日本大学	ボーイング787で使われているCFRPでサンドイッチを作ろう	11月3日

よって新しい物理法則を確立したのかを探りながら、同様の「思考実験」を通して機械工学におけるものの強さの仕組みについて理解する模擬講義が実施された。

〔関東学生会担当幹事 白石俊彦(横浜国立大学), 笹原弘之(東京農工大学)〕

関西学生会の活動

関西学生会の最大の特徴は、「学生の自主的活動」である。おそらく、全国に八つある支部の中で最も精力的に活動している学生会の一つではないかと思う。とくに、「メカライフの世界」展と「卒業研究発表講演会」の二つが、学生員がとくに力を入れて運営している活動である。学生会を担当している関西支部幹事は4名いるが、幹事は極力学生のサポートに徹している。以下では、この二つのイベントを中心に主な活動を述べる。

1. 学生会総会

学生会の活動は、4月から始まる上半期と10月から始まる下半期に分かれており、4月と10月に学生会総会を開催して学生会の年間活動報告、予算報告等を行っている。4月の上半期総会においては、学生会の委員長校、副委員長校、書記校、会計校が新しく選出される。

2. 幹事校会(運営委員会)

年に8回程度、30余名の運営委員の出席のもと、幹事校会(運営委員会)を開催し、「メカライフの世界」展、卒研発表講演会、見学会等の行事に関する企画立案・実施を含む学生会活動全般について熱心に議論している。

3. 講演会

幹事校会(運営委員会)と同じ日に、支部の幹事、開催校の先生等をお願いして、機械工学に限定することなく、授業とはひと味違った角度からわかりやすく幅広い分野のテーマについて講演していただいている。この講演会には運営委員以外の学生も参加できるよ

うになっている。今年度は、すでに以下の二つの講演会が実施された。

(1)「将来技術者になる学生は技術や社会とどう向き合うべきか」

京都大学教授 松久 寛 先生

(2)「固液界面とトライボロジー — スイス連邦工科大学留学体験記」

同志社大学准教授 平山朋子 先生

4. 見学会

年に1, 2回、学生会主催で京阪神地区の工場の見学会を開催している。見学先は、学生運営委員の希望を優先して決定している。今年度は、8月30日に川崎重工業(株)神戸工場の見学会を実施した。神戸工場では、船用ディーゼルエンジンやクリーンガスエンジンなど、ふだん見ることができない大規模な機械を見聞することができ、とても有意義な見学会だった。

5. 「メカライフの世界」展

小中学生をはじめ一般の人々に機械、機械工学に対する興味と理解を深めてもらうことを目的として毎年開催している。関西学生会が最も力を入れている活動の一つで、4月に開催される上半期総会の時期から企画会議を重ねて「メカライフの世界」展の実施に向けて検討を行っている。開催のPRは会場をお借りしている神戸市立青少年科学館の行事案内、マスコミを通じて広報などによって行っている。2010年度の「メカライフの世界」展は神戸市立青少年科学館において11月20日、21日に開催され、703人の入場者があった。2010年度は、サッカーロボットやレスキューロボットなどの展示と実演、フォーミュラカーの体験試乗を通して、子供たちに科学技術や機械工学に触れる機会を提供した。また、無料工作コーナーでは、厚紙で作る紙トンボや紙飛行機などを、有料工作コーナーでは、ミニ四駆などを用意し、子供たちにもものづくりを体験してもらった。2011年度も引き続き神戸市立青少年科学館において11月19日、20日に開催される予定である。2011年度は、ホバークラフトやフォーミュラカーの体



「メカライフの世界」展での工作の様子

験試乗、レスキューロボットの实演、ならびに、「相撲ロボット」、ペットボトルを用いた「空気砲」や「浮沈子」などの工作を予定している。

6. 学生員卒業研究発表講演会

卒業研究発表講演会は、関西学生会の最も重要な行事の一つである。毎年3月の卒業時期に開催され、学生諸君の一年間の研究成果を発表する機会を提供している。同時に特別講演と懇親会が開催される。2010年度は、2011年3月18日に京都工芸繊維大学で開催され、392件の発表があった。また、卒業研究発表講演会ではBest Presentation Awards(BPA)を設けており、2010年度は38名が受賞した。BPAの評価は司会者(大学院生)とコメンテータをお願いしている商議員の方々や会員校の先生方、関西支部シニア会会員によって行われている。講演プログラム編成、講演会の運営、講演の司会、BPAの採点集計・発表などはすべて学生会運営委員が担当している。2011年度の卒業研究発表講演会は2012年3月15日に関西大学で開催される。

7. 機関誌「春秋」

学生会の活動報告、「メカライフの世界」展などの行事内容や大学・高専の紹介など、写真を交えて毎年1回刊行されており、2011年度は通算43号となる。学生が自主的に編集し、ユニークで興味あふれる記事が掲載されている。

8. シニア会との交流会

毎年、関西支部のシニア会との交流

を図っている。2011年度は10月に「シニアによる企業経験談と技術者像についての討論会」と題して交流会が企画されている。また、シニア会主催の「理科工作教室」に学生員を派遣し、「理科工作教室」の運営に協力している。

以上のほか、関西支部主催の企業技

術交流会にも積極的に参加している。このように、関西学生会は、学生の自主的な運営のもと、多彩な活動を行っている。年度の初めは、遠慮がちだった学生諸君も、秋の「メカライフの世界」展が開催されるころには、企画の成功に向けて一致団結して頑張っている。「メカライフの世界」展と「卒業研究発表講演会」など数百から千人規

模のイベントを自ら企画・運営することは、学生諸君にとって大変ではあるが、とても貴重な体験である。この貴重な体験を糧に、学生諸君が社会でいっそう活躍することを関西学生会幹事一同願ってやまない。これらの活動に興味も持った学生諸君は是非、各大学の顧問にお尋ねいただきたい。
〔関西支部学生会幹事長 高比良裕之〕